

The Collection of

禿庵

TOKUAN

京都を学ぶ

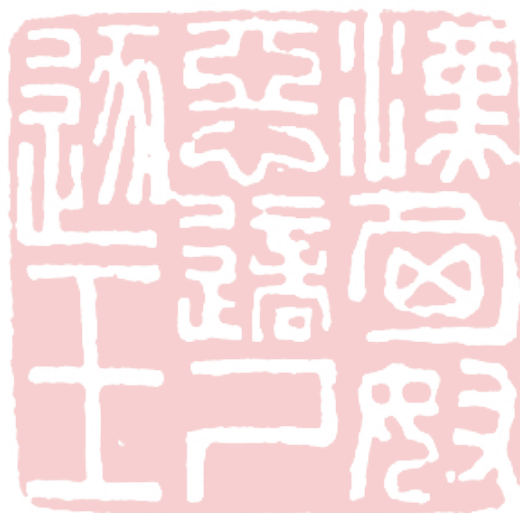
大谷大学博物館 二〇〇九年度冬季企画展

—大谷瑩誠と京都の東洋学—

2009年
12月15日 (火)



2010年
2月13日 (土)



■開館時間 10時～17時 (入館は16時半まで)
■休館日 日・月曜日および
十二月二十九日～一月六日、二月九日～十一日
■観覧料 一般・大学生：二〇〇円
小中高学生：一〇〇円 (本学同窓生・在学生は無料)
〒六〇三・八一四三 京都市北区小山上総町
Tel. 〇七五・四一一・八四八三 Fax 〇七五・四一一・八一四六
http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

講演会

大谷禿庵と京都の東洋学

礪波 護 (大谷大学博物館長)

日時：2010年1月16日 (土) 13:00～
場所：響流館 3階メディアホール

The Collection of

禿庵

TOKUAN

—大谷瑩誠と京都の東洋学—

本学の博物館・図書館には、先学の寄贈にかかるコレクションが多数収蔵されています。その中であって、本学第13代学長・大谷瑩誠^{えいじょう}が蒐集されたコレクションは、魅力溢れる品々に彩られています。禿庵^{とくあん}とは大谷瑩誠の号です。

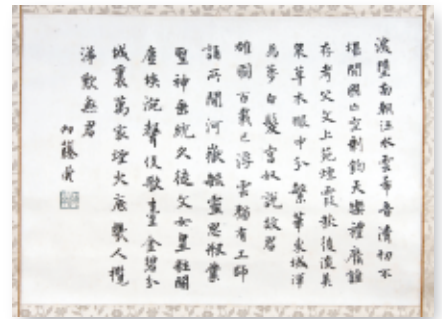
大谷瑩誠は、明治11年（1877）に東本願寺第22代門首・現如上人（大谷光瑩）の第五子として生まれ、東本願寺の宗務の要職を歴任しました。また、ヨーロッパの宗教事情視察のために渡欧し、フランス国立図書館で敦煌文献の研究に専念しました。昭和19年（1944）には、本学の学長に就任して戦中・戦後の混乱期の大学経営に尽力し、昭和23年（1948）4月28日、宗祖親鸞の命日に学長在任のまま逝去しました。瑩誠の愛蔵品の多くは本学に寄贈され、その号にちなんで「禿庵文庫」と名づけられ今日に至っています。重要文化財を含む膨大な収蔵品の中には、中国の古印や封泥、硯、拓本などの中国に関わる文物が多数あります。

明治末から大正初にかけては、中国の学問が京都において非常な勢いをもって勃興した時代でした。その中心となったのは、京都大学の内藤虎次郎（湖南）や狩野直喜（君山）らで、辛亥革命の動乱を避けて京都へ移住した中国学者の羅振玉・王国維らとともに新しい東洋学を提唱しました。瑩誠は、そのような雰囲気の中、内藤や狩野に学んで互いに交流し、東洋の学問に造詣を深めるとともに、生涯を通じて多くの中国文物の蒐集に努めたのでした。

本館の冬季企画展では、例年「京都を学ぶ」をテーマに展示を行っておりますが、今年度は、大谷瑩誠のコレクションとその人となりに関わる品々を通じて、「禿庵文庫」の魅力を紹介します。



中国古印



内藤湖南墨蹟



重要文化財「宋拓 信行禪師興教碑」
(前期のみ)



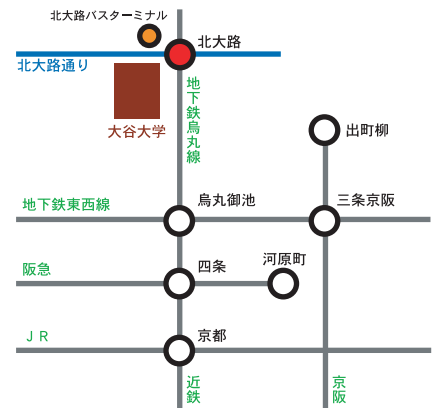
端溪大西洞赤壁硯

※会期中展示替あり。(前期：12/15～1/16 後期：1/19～2/13)

京都市教育委員会・京都市内博物館施設連絡協議会主催

「第15回ミュージアムロード」に参加!!

※2010年1月30日～2月13日のみ



●地下鉄丸丸線「北大路」下車、6番出口すぐ
●市バス「北大路バスターミナル」下車すぐ